

城南まちづくり協議会だより

城南まちづくり協議会事務局

城南まちづくり拠点施設内

☎0594-22-0034

FAX 0594-22-0058

2021年(令和3年)1月1日

第8号

新

年

あ

い

さ

つ



新しい年に向けて

城南まちづくり協議会会長 深津 和男

新年おめでとうございます。まちづくり協議会も設立から2年が経過しようとしています。活動内容も「城南まちづくり協議会だより」の全戸配布を通じて、徐々に理解が深まっているように感じますが、昨年はコロナの影響で、活動の停滞も余儀なくされました。コロナの終息はまだ先が見えませんが、ウィズコロナの気持ちで、あせらずに、本年も5つの部会の活動を中心に進めてまいります。

城南地区で70歳以上の一人暮らし・夫婦だけの世帯数の調査によると、一人暮らしは366世帯で地区全体の9.6%、夫婦だけの世帯245世帯で6.4%となっています。地区全体では桑名市の中で特に顕著な数字ではありませんが、自治会別で比べると大きな差が出ています。全37自治会中、一人暮らしの世帯割合が18自治会で10%を超えており、最高で23%となっており、夫婦だけの世帯割合は9自治会で10%を超えています。

この傾向は今後益々顕著になり、数年後には単位自治会或いは班の維持が困難となってくることが予想されます。こういったことから、向こう3軒両隣の助け合い、共助の必要性が高まっております。

この現状を踏まえ、地域の皆様のニーズを把握して、新しい活動の展開を模索していく必要を感じています。そのため、3年前に実施した「安心して楽しく暮らせる城南地区にするためのアンケート調査」をあらためて実施し、引き続き住民同士が助け合い、支え合える地域づくりをめざしたいと考えております。

皆様方のご理解、ご協力を本年もよろしくお願い申し上げます。

多くの方々の参加を期待して!

城南地区自治会連合会会長 伊藤 優

新年あけましておめでとうございます。

桑名市で最初のまちづくり協議会が設立され、早くも2年が経ちました。その時の連合会長さんや地区社協会長さん、そして関係者の皆さんにまず心よりお礼を申し上げたいと思います。

令和元年度は、リレー方式でラジオ体操をつないでいく『リレーでつなごう城南の輪』、令和2年度はKYT(危険予知トレーニング)などが各自治会を中心に開催され、37の自治会の点が、いま線となりつつあります。

昨年は集まったの活動が十分出来ませんでした。地区内の活動団体紹介や大切な情報『ハザードマップから死者ゼロへ』の発信など協議会だよりの発行は、連合会では出来なかった新しい取り組みであり、コロナ禍がもたらしたプラス面だと評価しています。今後益々進む少子・高齢化社会や地域の希薄化、城南の特有の課題に対応していくため、一人でも多くの皆さんと一緒に課題解決を図っていききたいと考えております。

地区社協が目指すもの

城南地区社会福祉協議会会長 飯田 寛

コロナ禍で多くの人々の日常生活が、恐怖や不安に陥っています。

また、各種組織の活動もやむを得ず、中止や休止を余儀なくされています。

当地区社協も同様で、昨年は総会をはじめ各種行事を中止しています。このような状況になることを、誰が予想できたでしょうか。閉塞感に満ちた、戦々恐々とする生活は誰もが望んではいません。一日も早いコロナ騒動の終息を願ってやみません。

地区社協の目指すものは、地域の一人ひとりが幸せに暮らせるようお手伝いすることだと私は思っています。そのために何をすべきか、地域の皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。人のことを思いやる気持ちを持つことが重要だと考えます。

安心・安全な日常生活が戻り、今年こそは皆さんの顔に笑顔が輝く事を希望します。



つながりサロン(茶話会、手芸、卓球、体操)のひとつに城南のよもやま話として城南に係わるあれこれをテーマに話し合いの時間をもちました。

城南のよもやま話

町屋川について

町屋川は2級河川の本流員弁川が正式名称であるが、河口付近の桑名市・川越町周辺では、「町屋川」と俗称され、町屋橋の下流のみを「町屋川」と称するのが正式とされている。しかし、以前は坂井橋より下流だったようである。流域では、町屋の名が愛着されており、久米小学校の校歌に「町屋のほとり」、在良小学校の校歌に「町屋の川は水澄んで」の歌詞があることからもうかがえる。

町屋川は、本田忠勝の慶長の町割りで、明正中学校付近で約90度右折し、現在の安永の南を流れるようになったとされている。朝日町の縄生と安永・和泉は地続きであった。それまでは、現在の近鉄益生駅周辺の町中を流れ、421号線沿いに東に行くと、三ツ矢橋、浅川通り、矢田碓、相川町という地名があることから、このあたりに川が流れていたことがうかがえる。

- 1 織田信長・豊臣秀吉の頃の城南
- 2 本田忠勝平八郎の頃の城南
- 3 桑名で行われている「お月見どろぼう」
- 4 江戸から明治にかけての農村の状況
- 5 蛸浜はどこだ?
- 6 「いもち」(虫送り行事)
- 7 幕末～明治にかけての城南-晴雲寺と赤報隊-
- 8 地蔵盆行事
- 9 町屋御用水

町屋川の川替前と川替後



使用した資料をつながりルームに配置しましたので自由にご覧ください!



城南老人会(寿楽会) 紹介



寿楽会会長 山下 進

城南老人会の歴史は記録、引継ぎもなく不明であります。県の記録は昭和37年4月に創立し、平成24年に50周年記念事業を開催と記録されています。高齢者にとって健康で長生きはみんなの願いであり仲間と一緒に笑い語り交流することが必要とされています。老人会は、最高、最終の大きな組織であります。その目標は、「健康事業」、「友愛事業」、「奉仕事業」を主な目的としています。

城南の新事業は「寿楽会だより」の発行、伊勢神宮初詣、記念講演、公共施設の草取り、児童一斉下校の見守り、寝たきり老人に友愛の品、自治会単位で実施する老人会自主事業補助の他、城南の民生委員会、社会福祉協議会、健康推進委員会、子供会の事業に参画し、それぞれの団体が持つエネルギーを出し交歓することにより大きな事業成果を上げる事が出来ました。

令和元年度に城南老人会が「優良老人クラブ」として桑名市から選出され県表彰を受けました。大変栄誉なことです。今後も城南高齢者の健康長寿と寿楽会が発展するよう、ご入会ご協力お願いします。老人会の愛称が「シニアクラブ桑名」となりました。

